

豊後水道研究集会

九州産業大学地域共創学部 行平 真也

1. 研究目的

豊後水道の海洋環境は、瀬戸内海系水や急潮・底入り潮の外洋系水の流入、水道内の潮流などの影響を受けて複雑に変化し、豊後水道及び周辺海域の水産資源変動にも影響を与えている。水産海洋学の研究対象として魅力的な豊後水道を舞台に、これまで海洋物理学、海洋生物学、水産学など、それぞれの学問領域ごとに様々な研究が行われてきた。しかしながら、豊後水道の多様かつ複雑な海洋環境や水産資源の変動を、本来ならば関連付けて議論されるべきであるが、両者の間に存在する低次生産から高次生産に至る相互関係、漁場形成などについて、これまで十分に研究されてきたとは言いがたい。研究機関の研究員数の減少傾向が続く中、研究者間の交流促進や情報共有は以前より増して重要になってきている。そこで、本研究集会では、豊後水道とその周辺海域における物理・化学・生物過程の水産海洋研究の事例を広く紹介してもらい、豊後水道を舞台に研究している研究者間の交流促進や情報共有の推進を図るとともに、研究者間の協働に向けた意見交換を行った。

2. 開催概要

開催日時：2021年11月29日（月） 14:00～17:20

2021年11月30日（火） 9:30～12:00

開催場所：愛媛大学総合研究棟 1, 6階会議室

（なお、Zoomによるオンライン視聴を併用した）

参加者： 20名

3. 発表概要

本研究集会では、新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、特に県をまたぐ移動においては出張自粛や人数の制限などの制約があり、当初予定されていたテーマ別と自由課題を併用した報告の募集が出来なかったことから、全て自由課題とした。

1日目は6題の報告があった。まず、本共同利用の代表者である九州産業大学地域共創学部の行平真也から趣旨説明を行った後、それに引き続き、「コロナ禍におい

て売り上げが向上した漁観連携の取り組みの事例」について報告があった。

次に愛媛県海域における話題として、愛媛県農林水産研究所水産研究センターの平井真紀子主任研究員から「カレニア赤潮の発生する年、しない年」、三門哲也研究員から「2021年の宇和島湾におけるカレニア・ミキモトイの非発生要因」と題し、愛媛県海域における赤潮や海洋環境に関して報告があった。また、後藤直登研究員から「宇和海における近年のシロアマダイの豊漁とその基礎生態について」報告があった。

次に宮崎県海域における話題として、宮崎県水産試験場の山田和也主任研究員から「日向灘に来遊するマサバと海況との関係」、堀井日向技師から「日向灘に来遊するマサバの成熟」について報告があった。

2日目は4題の報告があった。まず、大分県海域における話題として、大分県農林水産研究指導センターの山本宗一郎研究員から「佐伯湾における小型底びき網漁業の漁獲物組成・未利用資源の利用」について報告があった。

次に愛媛大学大学院の前谷佳奈氏からは「2021年の底入り潮の発生状況」について報告があった。水産研究・教育機構の梶原直人主任研究員からは「潜砂環境としての堆積物の物理的性質」について報告があった。最後に、最新の水産学における教育機関の取り組みとして、福井県立大学海洋生物資源学部の渡慶次力准教授より「福井県立大学・先端増養殖科学科の紹介」について報告があった。

2日間で、豊後水道を取り巻く水産海洋研究等の計10題の事例が紹介され、活発な意見交換等が行われた。

総合討論では、当研究集会の継続、次回の研究集会の方針などについて意見交換が行われた。当研究では、豊後水道に関係する多種多様な研究者が一堂に会し、研究者間の交流促進と情報共有が図れていることから、極めて重要な機会である。この機会を拡充するために、来年度は海域を広げて「瀬戸内海水産環境研究会（案）」とする提案がなされた。また、それに伴い、参加者も瀬戸内海における県や国等研究機関、大学へと広げる提案もなされた。

これらを踏まえ、次年度の研究集会は、各県が取り組む水産海洋研究について引き続き報告を行うことはもちろんではあるが、各県の研究担当者と愛媛大学、もしくは他の大学や国の研究機関に所属する研究者が意見交換を行うことが出来る貴重な場であることから、完結した研究報告ではなくとも、各県の状況について広く情報共有を求めるような報告についても積極的に出される方が望ましいとの意見があった。

本研究集会では、その目的である研究者間の協働を強力に推進している。今後も、協働可能な研究テーマについて議論を続け、具体的な現場課題の解決に繋がるような研究集会を目指していきたい。

4. プログラム

日 時：2021年11月29日（月）14：00 ～ 30日（火）12：00

場 所：愛媛大学総合研究棟 1, 6階会議室（松山市文京町 2-5）

Zoomによるオンライン視聴を併用した。

11月29日（月）

趣旨説明：行平真也（九州産業大学）

- (1) コロナ禍において売り上げが向上した漁観連携の取り組みの事例
行平真也（九州産業大学）
- (2) カレニア赤潮の発生する年、しない年
平井真紀子（愛媛水研）
- (3) 2021年の宇和島湾におけるカレニア・ミキモトイの非発生要因
三門哲也（愛媛水研）
- (4) 宇和海における近年のシロアマダイの豊漁とその基礎生態について
後藤直登（愛媛水研）
- (5) 日向灘に来遊するマサバと海況との関係
山田和也（宮崎水試）
- (6) 日向灘に来遊するマサバの成熟
堀井日向（宮崎水試）

11月30日（火）

- (7) 佐伯湾における小型底びき網漁業の漁獲物組成・未利用資源の利用
山本宗一郎（大分水研）
- (8) 2021年の底入り潮の発生状況
前谷佳奈（愛媛大学大学院）
- (9) 潜砂環境としての堆積物の物理的性質
梶原直人（水産研究・教育機構）
- (10) 井県立大学・先端増養殖科学科の紹介
渡慶次力（福井県立大学）

総合討論